

埋蔵文化財調査センター
ニュースレター

特集 北大キャンパスの地底世界へ「アースダイビング」

北大札幌キャンパスの地下には、縄文文化中期以降の人類活動の痕跡が遺されています。特に統縄文期と擦文文化の痕跡が濃厚ですが、その直前の縄文晩期の様相も徐々に明らかになってきました。2001～02年に発掘調査されたK39遺跡人文・社会科学総合教育研究棟地点（略称：BSK地点）には、縄文晩期の終末段階から統縄文期前半にかけて、この地で活動した人たちの痕跡が、屋外炉址や竪穴住居址、土坑などの遺構と大量の土器や石器などの遺物とを包含する何枚もの地層（文化層）の中にとどめられています。そこから何を読み取れるのでしょうか。

今季から展示方式を一部リニューアルしました。最新の発掘調査の情報やこれまでに解明してきた内容などを、北大キャンパスの地底世界をのぞき込むようにして紹介します。さあごいっしょに、「アースダイビング」しましょう。



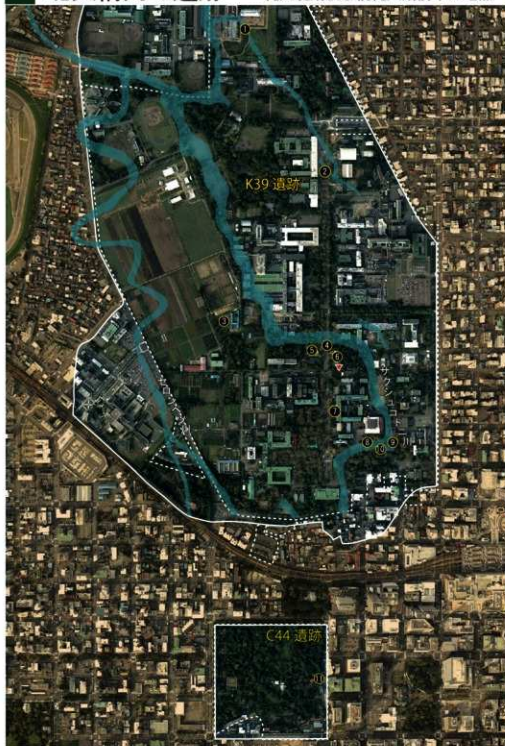
▲リニューアルした展示方式：K39遺跡BSK地点で「アースダイビング」

最上段は現在の北大キャンパスの地上面です。これまでに発掘調査が実施された地点が緑色で、人類活動の痕跡が発見された地点が黄色で示されています。サクシュコトニ川沿いに濃密な分布状況を確認できます。今回の地底世界の入り口はBSK地点です。

第2段目以下はBSK地点の地下で発見された各文化層（人類活動の痕跡をとどめる地層）です。上から順に12c層・13b層・14a層で、ここまでが統縄文期前半、すでに2000年前を超えています。その下に14d層が広がります。いよいよ縄文晩期の地底世界に到着です。

北大構内の遺跡

—縄文晩期及び続縄文期前半の地点—



- ▲ 埋蔵文化財調査センター
- サクシュコトニ川とセロンベツ川
- サクシュコトニ川の範囲で発見された埋蔵河道
- 縄文晩期もしくは続縄文期前半の地点



▲ ①人獣共通感染症研究拠点施設地点の遠景写真



▲ ⑤ゲストハウス地点の地層断面写真



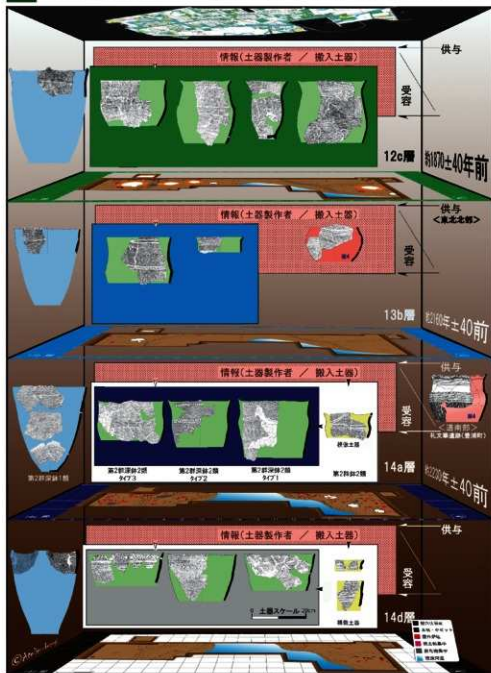
▲ ⑦人文・社会科学総合教育研究棟地点の12c層で確認された第1号壁穴住居址の床面状態



▲ ⑧附属図書館再整備地点で確認された砂礫層（この層から縄文晩期、続縄文期前半の遺物が発見された）

番号	地名	用途	遺構	出土遺物	備考
①	K39運動人獣共通感染症研究拠点施設地点	縄文晩期	—	土器片・黒曜石製石片石鏃	北大構内の遺跡② 2008年～1917
②	K39運動部活動中心研究棟等電気設備地点	続縄文前半	—	土器片	北大構内の遺跡④ 2006年～1917
③	K39運動部活動棟南東管理棟地点	縄文晩期 もしくは 続縄文前半	—	黒曜石製石片石鏃	北大構内の遺跡③ 2012年～1917
④	K39運動部活動棟（市民館）中央階段4.1.3地点	縄文晩期	—	土器片・黒曜石製石片石鏃・輝石	北大構内の遺跡⑩ 1998年～1917
⑤	K39運動部ゲストハウス地点	続縄文前半	伊豆4層	土器片・黒曜石製石片石鏃・輝石	1998年～1917
⑥	K39運動部図書生体館地点	続縄文前半	—	土器片・土器片・黒曜石製石片石鏃・輝石 黒曜石製石片石鏃・輝石	2017年度実施 / 未報告
⑦	K39運動部人文・社会科学総合教育研究棟地点	縄文晩期	壁穴住居址12a、土器36a、伊豆12b	土器片、土器片、黒曜石製石片石鏃、輝石、黒曜石製石片石鏃、輝石、黒曜石製石片石鏃、輝石、黒曜石製石片石鏃、輝石、黒曜石製石片石鏃、輝石	K39運動部人文・社会科学総合教育研究棟 2004年～1917
⑧	K39運動部図書生体館本館南東管理棟地点	縄文晩期	—	土器片、黒曜石製石片石鏃、輝石	北大構内の遺跡⑨ 2012年～1917
⑨	K39運動部図書生体館本館南東管理棟・周辺遺構地点	縄文晩期 もしくは 続縄文前半	—	土器片	北大構内の遺跡⑨ 2012年～1917
⑩	K39運動部図書生体館南東管理棟地点	続縄文前半	—	土器片	北大構内の遺跡④ 2006年～1917
⑪	C44運動部図書生体館南東管理棟地点	続縄文前半	—	土器片・黒曜石製石片石鏃	北大構内の遺跡⑧ 2012年～1917

K39遺跡人文・社会科学総合教育研究棟地点



K39遺跡標準層序(写真はグストハウス地点)



層位	土器の出土量の変化(左)				人類活動の痕跡を示す各種施設(屋外炉址、竪穴住居、土坑)の検出数の変化(右)			
	深鉢1類	深鉢2類	深鉢3類	深鉢4類	屋外炉址	竪穴住居	土坑	その他
12a層	10	10	10	10	1	1	1	1
12b層	10	10	10	10	1	1	1	1
13b層	10	10	10	10	1	1	1	1
14a層	10	10	10	10	1	1	1	1
14d層	10	10	10	10	1	1	1	1

層位ごとの土器の出土量の変化(左)と人類活動の痕跡を示す各種施設(屋外炉址、竪穴住居、土坑)の検出数の変化(右)。BSK地点では14d層の縄文晩期の最終未から屋外炉を使用した活動が始まり、14a層の縄文前期に於いて竪穴住居が構築される。

道央部の在り地系統の土器である第2群深鉢1類(※1水色)が縄文晩期から縄文前期前半にかけて漸減してゆく。一方で、東北北部の系統を引き継いだ土器(※4赤色)の製作技術と情報を取り込んだ模倣土器(※3黄色)を介して、新たな土器(※2緑色)が作られる。

K39遺跡BSK地点では、土器群構成のこのような繰り返しにあらわれた地域間の関係の変化と、河川漁撈のための季節的なキャンプ地としての利用から低湿な土地が徐々に高まって通年居住が可能になる変化過程とをみる事ができる。

■『地底探検記』から『アースダイバー』へ

多くの妖しげな『縄文本』が刊行される中で、斬新な切り口で縄文文化の魅力を紹介したのが宗教人類学者・中沢新一さんの著作『アースダイバー』（2005年刊行）です。NHKの人気番組『プラタモリ』の‘縄文版’といったところでしょうか。もうそこまで突き抜ければなにも問題はありません。

明治40年に出版された江見水陸著『地底探検記』以来、「地底世界」は私たちの想像をかき立てます。地下にある空洞に、地上とは別の世界が存在するかのような言葉の響きですが、それはあくまでも比喩的な表現。地下に存在するのは人類の活動痕跡をとどめた地層だけです。そこには現代の私たちにつながる人類史の一コマ一コマが記録されています。あたかも巨大な書物のように。中沢さんの言葉をお借りして‘アースダイビング’と呼んでみました。



■【お知らせ】第10回遺跡調査成果報告会の開催

平成29年度に当センターで実施した埋蔵文化財に関する調査研究の成果について、下記のとおり報告会を開催します。

日時：平成30（2018）年3月17日（土）13:00～15:15（予定）

会場：北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W103
（札幌市北区北10条西7丁目）

プログラム（予定）

12：30～ 開場

第1部 調査報告

13：05～13：25 高倉 純（埋蔵文化財調査センター）

「2017（平成29）年度における調査概要」

13：25～13：45 本山志郎（埋蔵文化財調査センター）

「K39遺跡教育学部北地点の調査成果」

13：45～14：15 守屋豊人（埋蔵文化財調査センター）

「K39遺跡医学部百年記念講堂地点の調査成果」

14：15～14：35 休憩

第2部 講演

14：35～15：15 山田 悟郎（元北海道開拓記念館）

「道央の遺跡における花粉分析の成果」

15：15～15：25 質疑応答

※事前申し込み不要

詳細は当センターホームページなどをご覧ください。

■ 第18回トレイルウォークの実施

平成29年10月15日（日）に第18回トレイルウォーク（テーマ：掘文期における集落と墓）を実施しました。

第18回は75名の参加者とともに、K39遺跡医学部陽子線研究施設地点で確認された「北海道式古墳」を紹介したサイン、遺跡調査途中であったK39遺跡医学部百年記念館地点を巡りました。



▲第18回トレイルウォークの様子

編集後記

BSK地点の緊急発掘調査報告書を素材にして本特集を組んでみました。報告書に掲載された図面や写真は表現アイテムとして大きな可能性を秘めています。本紙を片手に、企画展示に合わせて一部リニューアルした展示をご覧ください。（小杉）

十数年前に検討した資料を改めて見つめ直す機会になりました。（守屋）

北海道大学埋蔵文化財調査室ニュースレター第28号

発行：北海道大学埋蔵文化財調査センター
〒060-0811 札幌市北区北11条西7丁目

電話：011-706-2671 FAX：011-706-2094

e-mail: hokudaimaibun@gmail.com

URL: <http://maibun.facility.hokudai.ac.jp/>